

地球環境問題

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

地球の環境とエネルギーの問題に、世界はどう取り組んでいるのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 地球環境問題

温暖化

ちきゅうおんだんか
地球温暖化

地球の平均気温が上がっていくこと。

おんしつこうか
温室効果ガス

二酸化炭素など、熱をとじこめる気体。

きょうてい
パリ協定

2015年に採択された、温暖化対策の国際的な約束。

石油や石炭を燃やすと、二酸化炭素などの**温室効果ガス**が出て、大気にたまる。これにより地球の平均気温が上がる**地球温暖化**が進み、海面の上昇や、異常気象、干ばつなどが心配されている。ほかにも、フロンによる**オゾン層の破壊**、酸性雨、砂漠化、熱帯林の減少などの問題がある。フロンについては、1987年のモントリオール議定書で規制が進められた。

1992年の地球サミット(国連環境開発会議)で気候変動枠組条約が結ばれ、1997年の**京都議定書**で、先進国に温室効果ガスの削減が義務づけられた。2015年の**パリ協定**では、先進国も途上国もすべての国が自ら削減目標をつくって取り組むことになった。世界の平均気温の上昇を、産業革命前に比べて2度より十分低く、できれば1.5度に抑えることが目標とされている。日本は、2050年までに排出量と吸収量を差し引きで実質ゼロにする目標を掲げ、脱炭素社会をめざしている。



2 資源・エネルギー問題

エネルギー

かせきねんりょう
化石燃料

石油・石炭・天然ガスなど、限りある燃料。

さいせいかのう
再生可能エネルギー

太陽光や風力など、くり返し使えるエネルギー。

げんしりょくはつでん
原子力発電

ウランの核分裂を利用する発電。

世界のエネルギーは、石油・石炭・天然ガスなどの**化石燃料**に大きくたよっているが、これらには限りがあり、燃やすと温室効果ガスも出る。日本はエネルギー資源のほとんどを輸入しており、エネルギー自給率は2割に満たない。化石燃料にたよりすぎると、価格の変動や輸入の止まりといった影響も受けやすい。

そのため、太陽光・風力・地熱・バイオマスなど、くり返し使える**再生可能エネルギー**の利用が進められている。**原子力発電**は二酸化炭素を出さないが、2011年の福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、安全性があらためて問われた。省エネルギーを心がけ、むだのない社会をつくることも、持続可能な未来のために大切である。太陽光や風力は天候に左右されやすいため、電気を安定して送る工夫も求められている。

問いへの答え

温室効果ガスの増加で地球温暖化が進み、海面上昇や異常気象が心配されている。世界は京都議定書やパリ協定で削減に取り組んでいる。また、化石燃料には限りがあるため、太陽光や風力などの再生可能エネルギーの利用を進め、省エネルギーも心がけることが求められている。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

